

テーマ：北方領土（実践校）

十勝管内 帯広市立帯広第二中学校

本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、総合的な学習の時間や社会科において、「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用し、北方領土の自然や歴史について調べる学習を位置付けるとともに、外部講師による講話等を通して、北方領土と自分の生活との関わりについて探究的に学習しました。

ふるさと教育・観光教育の実践内容

単元の目標

北方領土と自分たちとの関わりや自然環境等について調べる活動を通して、北方領土の自然や歴史について理解するとともに、領土問題を身近な問題として捉え、北方領土に対するこれからの願いを具体的に考え、領土問題に関心をもって発言したり行動したりすることができるようにする。

取組の様子

(1) 課題の設定

「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用し、社会科の学習内容や北方領土に関する各種資料を基に、北方領土の特色や歴史について調べ、更に詳しく調べたいことについて探究的な課題として設定しました。

(2) 情報の収集

北方領土の語り部による講話や映画「ジョバンニの島」の視聴を通して、北方領土の自然、領土問題について情報を収集しました。生徒は元島民の生活の実態について、理解を深めることができました。

また、北方領土問題対策協会等のWebページの学習教材を活用し、各自で詳しく調べたいことについて情報を収集しました。

(3) 整理・分析

1人1台端末を活用し、収集した情報を整理するとともに、共同編集機能で同じ課題を設定した生徒同士で内容について交流・協議することにより、命の尊さや平和の大切さ及び北方領土の特色や自分たちの生活との関わりについて、理解を深めました。

(4) まとめ・表現

作成したスライドを用いた生徒相互の発表を通して、北方領土の特色や歴史についての理解を深めることができました。生徒からは、「1日でも早く北方領土が戻ってほしいと強く思った。」「北方領土の豊かな自然を守っていききたい」「ふるさとを大切にしていきたい」などのまとめがあり、北方領土の問題を身近な問題として捉え、北方領土に対するこれからの願いを考えるなど理解を深めることができました。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導の工夫

- ・課題解決に向けて生徒が主体的に学習を進めることができるよう、課題の設定の場面において、社会科の学習内容や各種資料の内容を想起し、生徒一人一人が解決の方向性を見通したりする場面を位置付けました。
- ・課題について、理解を深めたり、新たな課題解決の視点を捉えたりできるよう、1人1台端末を活用して共通する課題に取り組む生徒同士による共同編集機能等を使った交流・協議ができるような場面を設定しました。



【語り部講話の様子】



【1人1台端末で交流・協議する様子】

実践の振り返り

- ・「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用するとともに、生徒自身が設定した課題について、探究的に学習を進めたことにより、地域や北方領土に対する興味・関心が高まるとともに、ふるさとに対する愛着や誇りを育むことができました。
- ・総合的な学習の時間を中心として、カリキュラム・マネジメントを行い、各教科等の指導内容と関連付けた教育課程を編成することを通して、自分たちの住んでいる地域及び北海道に対する愛着や誇りをより一層育むことが期待できます。